

令和3年度 大田区立荻谷中学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

◇生徒数442名、学級数13学級、教員数23名
 ◇特色ある教育活動としては、特に次の5点が挙げられる。①大田区人権教育研究協力校として、人権感覚を高めるための取組を、夜間学級や近隣の小学校とも連携を図りながら実践している。②「いじめ防止プログラム」「職場体験」「福祉体験」など体験的な取組を重視し、生徒の自己肯定感を図っている。③地域との連携に力を入れている。特に、防災教育については、町会及び関係機関と連携した学校防災活動拠点訓練の実施を通して防災・安全についての意識を高めている。④大田区不登校対策事業実施校として、教育センターや適応指導教室、小学校との連携を図り、不登校の改善や未然防止のための取組を進めている。⑤生徒会・委員会活動、学校行事、部活動などを通して、生徒の自主性を育て、生徒主体の活動ができるようにしている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄															
								評価	コメント														
育を創造的に生かす子供の	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3 88.9	①全国学力・学習状況調査で「1、2年生のときに受けた英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか」という問いに「当てはまる」と答えた生徒の割合 4:80%以上 3:60%以上80%未満 2:40%以上60%未満 1:40%未満	3	◇外国語教育指導員の活用については、授業の他、英語掲示版にカナダのことを掲示してもらったり、連合発表会英語部の発表者の指導をしてもらったり、様々な場面で活用している。連合発表会では区で2位になるなどの成果もあった。英語カフェの充実などを検討し、さらなる効果的な活用を目指していきたい。 ◇1学期に全生徒にタブレットPCを配布し、授業や課題の提出などで活用を始めていく。使用の頻度は教科や教員によりまちまちである。さらなる活用の推進のために、教員研修を充実させ、スキルの向上を図りたい。 ◇ものづくり教育、人権教育、体力向上の取組などは、教科や道徳、学活、行事等で、担当者を中心に学校全体で組織的に取り組めるように内容を改善していきたい。	A	6	◇全ての項目について、協議会での話を聞いて妥当であると評価させていただきました。 ◇タブレットPCのさらなる活用を期待します。 ◇テスト前などにタブレットを使用してテスト勉強を行っている姿を何度か見ました。教科によって違うかと思いますが、板書の苦手な生徒は、活用できて良いと感じました。 ◇特定の生徒だけでなく、生徒全員に英語を身に付けるカリキュラム的なものがあれば良いのですが。 ◇コロナ禍でもあり、タブレットの活用を学校、家庭ともう一段階アップできたら良い。													
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのしみづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	2 58.8	②保護者による学校生活アンケートで「子どもは学習用タブレットを家庭学習で有効に活用している」という問いに「そう思う」または「どちらか」と答えた保護者の割合 4:80%以上 3:60%以上80%未満 2:40%以上60%未満 1:40%未満	3	◇学習カルテについては十分に活用できているとはいえない。活用場面を増やす工夫をしていきたい。 ◇ステップ学習は有効に活用できなかった。家庭学習の課題などで生徒が進んで学習できるように、活用の推進を図っていききたい。 ◇部活動との兼ね合いもあり、補習授業への参加者が半減少となっている。さらなる声かけをすとも、学習補助員と連携を図りより魅力ある学習課題を用意していきたい。 ◇授業改善推進プランは1学期の取組を基に夏期休業中に作成している。学期ごとに直し、PDCAのサイクルで授業改善に取り組んでいきたい。 ◇指導と評価の一体化の研修は、各教科の事例紹介し合ったり、指導主事を講師とした校内研修を実施したり、充実させることができた。次年度も、引き続き各教科で研修を重ねていきたい。	B	1	◇補習授業の参加者が少なくなるのはもったいないですね。 ◇授業内容に保護者・生徒とも不満はないようである。 ◇カリキュラムについて行けない生徒が可能な限りでないように、授業、補習など気を配ってほしい。 ◇オンラインで授業を受けている生徒と、通学している生徒との評価の違いはあるのでしょうか。													
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	3 94.4	①生徒による学校生活アンケートで「分かりやすい授業が行われている」という問いに「そう思う」または「どちらか」と答えた生徒の割合 4:90%以上 3:75%以上90%未満 2:60%以上75%未満 1:60%未満	3	◇基本的な生活習慣や授業規律の確立については、ほぼ全教員が意識して力を入れて指導している。小学校と連携し、小中一貫スタンダードなどを活用し、引き続き取り組んでいく。 ◇小中連携の授業公開や道徳授業地区公開講座の実施の際に、各学年の道徳推進担当が中心となり、教材や課題について研修を深めた。年間指導計画別業の活用については、学校全体で見直し・改善を図っていききたい。 ◇学校生活調査やハイパー-QUの結果を学年会で確認し、課題を共有することができた。必要な情報を生活指導部会で報告し、全体で共有できるようにしていく。 ◇学校いじめ防止基本方針を見直し改正し、いじめ防止についての校内研修会を実施した。未然防止、早期発見・対応、重大事案があったときの対応など学校が取り組むべきことについての理解が深まった。次年度以降も研修を計画的に実施していく。	A	6	◇評価は適切と考えます。 ◇コロナ禍において、生徒同士の接し方などに変化がないか十分に配慮してほしい。 ◇学校だけでなく、家庭における問題で精神的なストレスなどへの配慮をお願いしたい。													
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	2 78.9	②保護者による学校生活アンケートで「学校は、子どもの能力を適切に評価し、学習意欲を高めている」という問いに「そう思う」または「どちらか」と答えた保護者の割合 4:90%以上 3:75%以上90%未満 2:60%以上75%未満 1:60%未満	3	◇「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	2	◇「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	◇「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	100	①「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	100	②「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	100	③「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	100	④「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。